

# 誰もが利用可能な World Wide Web 実現へ向けて — 情報化社会におけるアクセシビリティを めぐる W3C の取り組みと国内外の動向 —

World Wide Web Consortium (W3C)

中根雅文

2000年9月21日

## 初めに

インターネットの普及にともない、インターネットを用いて提供される情報やサービスは増大している。また、提供される情報やサービスの多様化も進んでいる。この結果、インターネットはこれまでのテレビ・ラジオ・新聞といったメディアや電話などの通信手段と同等、あるいはそれ以上の役割を果たす存在になるようとしている。しかし、このように社会生活において重要な位置づけになりつつあるインターネットは、必ずしも全ての人にとって容易に利用できるものではないのが現状である。特に身体障害を持つ人々には、このことが大きな問題としてとらえられており、国内外を問わず、この問題への積極的な取り組みが行われている。本発表では、インターネットを用いて提供される情報やサービスが誰にとっても利用しやすいものにするための意義や重要性について解説し、そのために行われている取り組みについて W3C の活動を中心に紹介する。

## アクセシビリティの重要性

まず、アクセシビリティの概念について解説し、その重要性について述べる。

- アクセシビリティとは  
全ての人々がほぼ同じコストでほぼ同じ情報量を得られること。
- 障害者・高齢者のインターネット利用の意義
- situational disability について

## Web Accessibility Initiative の活動

次に、World Wide Web Consortium (W3C) の中で、Web のアクセシビリティに関する活動を行っている Web Accessibility Initiative (WAI) について、その活動内容を紹介する。

- アクセシビリティに配慮した仕様の策定
- ガイドラインの策定
- 教育・啓蒙活動
- アクセシビリティのチェックおよび改善のためのツール開発に関する活動
- W3C 外部での研究・開発活動に関する調査

## ガイドラインについて

次に、WAI で策定を行っているガイドラインについて紹介する。

- Web Content Accessibility Guidelines
- Authoring Tool Accessibility Guidelines
- User Agent Accessibility Guidelines

## 国内外の動向

次に、以下の点について国内外の動向を紹介する。

- アクセシビリティ改善のための取り組み
- 障害者・高齢者のインターネット利用状況
- 法的側面

## 今後の展望

最後に、アクセシビリティの向上のために必要な技術的な研究開発に関して、今後予想される動きについて述べる。

- インターネット利用環境の多様化
- 高齢者の増加

## 参考資料

本日の資料 <http://www.accessibility.org/~max/talks/200009-enc/>

WAI ホームページ <http://www.w3.org/WAI/>